

京都人類学研究会 7月例会

共催 京都大学GCOE「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」
大阪大学GCOE「コンフリクトの人文科学国際研究教育拠点」

自立・連帯・生存

ーネオ・リベラリズム時代の「貧困」をめぐる社会学と人類学の対話ー

日時 7月26日（土）14:00～18:00

場所 京都大学 吉田南構内 総合人間学部棟1102講義室

【シンポジウムの趣旨】

ネオ・リベラリズムが推し進めてきた自立化／個人化は、世界的な労働力の流動性を高める一方で、不安定な雇用によるあらたな貧困層を生みだしている。この現代的状況における「生存」という問題を社会学と人類学の対話を通して考える。とくに日本の文脈で強調されてきた「自立化＝自己責任」の諸相を、他地域の事例から相対化する。「自立と連帯」／「個人と共同体」という枠組みをこえて、現代の生存を支える基盤を問いなおす。

【プログラム】

14:00～14:30 平井秀幸（日本学術振興会特別研究員）

ネオリベラリズムからく社会的なものへの再考／再興へー「ポリリズムとしてのネオリベラリズム」への抵抗に向けて

14:30～15:10 居郷至伸（横浜国立大学 大学教育総合センター）

日本のコンビニエンスストア個人化と搾取のメカニズム、および打開に向けた手がかり

15:10～15:50 仁平典宏（日本学術振興会特別研究員）

現代日本における「ホームレス」の生と構造ー自立と連帯のあいだ

【休憩】

16:00～16:40 森田良成（大阪大学 人間科学研究科）

「怠け者」たちの労働と生存ー西ティモールの廃品回収人の事例

16:40～17:20 小川さやか（日本学術振興会特別研究員）

都市社会を生き抜く騙しの技法ータンザニアの零細商人の生計実践と仲間関係を事例に

17:20～18:00 コメント・総合討論

コメントーター：春日直樹（大阪大学）・山北輝裕（関西学院大学）

【備考】

*事前の参加予約は必要ありません。

*当日は、資料代として200円をいただきます。

*京都人類学研究会は、京都を中心とする関西の人類学および関連分野に関心をもつ大学院生・研究者がその研究成果を報告する場です。どなたでも自由に参加いただけます。

【お問い合わせ先】 inq_kyojinken@yahoo.co.jp

松村圭一郎（7月例会担当）

清水展（京都人類学研究会代表）